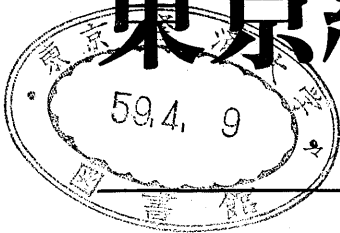


東京経大会誌

第 134 号



マルクス没後 100 年記念号

巻頭言・いまなぜマルクスか

今 村 仁 司 (3)

第 1 部 《マルクス没後 100 年記念シンポジウム》

マルクスと経済学

春 田 素 夫 (9)

マルクスと哲学

廣 松 渉 (43)

マルクスと政治学

柴 田 高 好 (73)

マルクスと《第三世界》

山 崎 馨 (111)

マルクスと現代経済学

高須賀 義 博 (141)

第 2 部 《マルクス論集》

『資本論 第 1 部』第 2 版の邦訳を終えて

江 夏 美千穂 (175)

現代資本主義分析とカール・マルクス

長 島 誠 一 (205)

資本の絶対的過剰生産の成立機構

藤 井 速 實 (233)

企業者利得と創業者利得

高 山 朋 子 (255)

第 3 部 《研究ノート・資料》

管理と支配についてのノート

長 岡 克 行 (289)

史的唯物論の基礎概念と自然科学

大 沼 正 則 (305)

労働と時間について

今 村 仁 司 (327)

座談会・マルクスは今に生きるか

荒川幾男 今村仁司

柴田高好 春田素夫

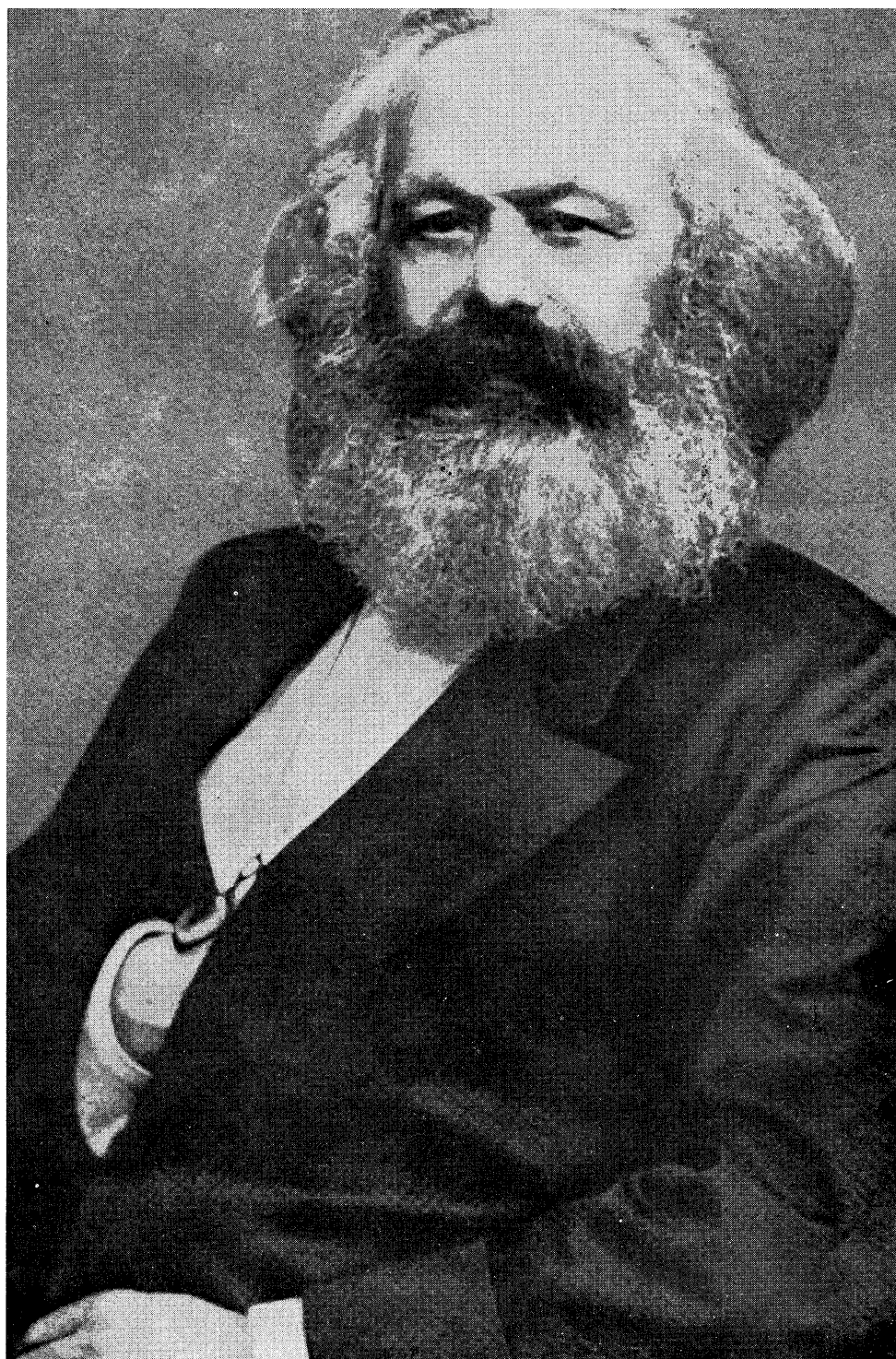
山崎 馨 (司会) (333)

編 集 後 記

(349)

1983 年 12 月

東 京 経 済 大 学



編集後記

1983年は、マルクス死後100年、ケインズ、シュンペーター生誕100年にあたる。100年という数字には何の意味もないが、きれいのいい数字をきっかけにして各思想家の業績をふりかえてみるのも無駄ではない。1983年の論壇や人文・社会科学系の学会は、とくにマルクスを中心に動いたかにみえる。マルクスを清算しようとする動きとマルクスをうけつごうとする動きがぶつかりあっているのが実状であるが、雑誌の特集号にも学会の諸シンポジウムにもこうした動きが色濃く反映していたようだ。本誌は、大学の紀要であるから必ずしも社会的動向を直接に反映してはいない。むしろ、アカデミックな色彩をつよく出しているといえる。その点を不満に思う読者も多いことだろう。けれども、マルクスのように今なお政治的イデオロギーの論戦のなかで生きつづける思想家を考える場合には、極端なまでに冷静で客観的な態度をとる方がいいのだ。右翼の狂信も、左翼の狂信もわれわれのとるべき態度ではない。狂信からは、荒廃は生れても、生産的で発展的なものは何も生じはしないからだ。

この「マルクス特集号」は、本学のマルクス研究の一端を示すにすぎない。もっと多くの寄稿者を期待し、また予定もしていたのであるが、諸般の事情から、予定の一部分しか実現できなかったことを、まことに遺憾に思う。この特集号を一里塚として、将来再びさらに充実したマルクス特集号が組めることを心から期待してやまない。

本号作製にあたって、多くの人びとの協力を得た。特別予算を承認して下さった学長、三学部長の諸氏にたいして心からお礼申し上げる。シンポジウムに御足労ねがった井汲、門上両名誉教授にも感謝申し上げます。江夏美千穂教授からは、個人的に御芳志を頂戴したが、われわれはそれをシンポジウムの費用に利用することができた。江夏教授の熱心な御援助にたいして、ここで厚くお礼申し上げます次第である。編集事務については、教務課の鈴木佑治氏の御高配を賜った。こうして本特集号は、多くのひとびとのあたたかい協力の下でつくりあげられることになった。直接間接に協力して下さいた皆様、ここでひとまとめにお礼申し上げておきたい。

1983年11月

編集責任者 今村仁司

執筆 者 紹 介 (掲載順)

今 村 仁 司	本学教授
春 田 素 夫	本学教授
廣 松 涉	東京大学教養学部教授
柴 田 高 好	本学教授
山 崎 カヲル	本学助教授
高須賀 義 博	一橋大学教授・本学非常勤講師
江 夏 美千穂	本学教授
長 島 誠 一	本学教授
藤 井 速 實	本学教授
高 山 朋 子	本学助教授
長 岡 克 行	本学教授
大 沼 正 則	本学教授
荒 川 幾 男	本学教授

東京経大会誌 第 134 号

1983年12月20日 印 刷

(非売品)

1983年12月25日 発 行

編 集 者 今 村 仁 司
代 表 者

編 集 人 東 京 経 大 学 会 誌 会
発 行 人 編 集 委 員 会

東京都国分寺市 東京経済大学内

印 刷 所 伊 坂 美 術 印 刷 株 式 会 社

印 刷 者 伊 坂 一 夫

東京都中央区新川 2-1-5

THE JOURNAL
OF
TOKYO KEIZAI UNIVERSITY

No. 134

KARL MARX: The Centennial of His Death

Prologue: Why Marx Today?Hitoshi IMAMURA (3)

I <Symposium on Marx>

Marx and Political EconomyMotoo HARUTA (9)

Marx and PhilosophyWataru HIROMATSU (43)

Marx and PoliticsTakayoshi SHIBATA (73)

Marx and The "Third World"Kaoru YAMASAKI (111)

Marx and Modern Economics.....Yoshihiro TAKASUKA (141)

II <Articles for Marx>

Über meine Übersetzung ins Japanische aus
dem „Kapital, Bd. I“ (zweite Auflage).....Michio ENATSU (175)

A Critical Analysis of Contemporary
Capitalism and Karl MarxSeiichi NAGASHIMA (205)

On the Realization Mechanism of Absolute
Over-production of CapitalHayami FUJII (233)

Entrepreneurial Profit and Promoter's ProfitTomoko TAKAYAMA (255)

III <Notes · Materials>

Leitung—herrschtsfrei?Katsuyuki NAGAOKA (289)

Historical Materialism and Natural Science
.....Masanori OONUMA (305)

Labour and TimeHitoshi IMAMURA (327)

Around Table Talk: The Significance of Marx
.....Ikuo ARAKAWA, Hitoshi IMAMURA
Takayoshi SHIBATA, Motoo HARUTA
Kaoru YAMASAKI (333)

TOKYO KEIZAI UNIVERSITY

Kokubunji-shi, Tokyo

1983 · 12